

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 82

水の尽きないまち「宿毛」

高知県 宿毛市長
なかにし せいじ
中西 清二



宿毛市は四国の西南端に位置し、大型の流通港湾を有する宿毛湾の背後に開けており、全国どこよりも早い桜の開花が示すように、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた地域です。冬になると、沿岸部では「だるま夕日」が見られます。海水温と気温の差から生じる光の屈折で見ることができる大自然の芸術で、これも水（海）の恵みと言えるでしょう。

豊後水道に面した宿毛湾口には、高知県唯一の有人離島「沖の島」「鵜来島」を有し、日本屈指の磯釣りのメッカとして、また全国有数の透明度を誇るダイビングスポットとしてその名が知られています。

また、宿毛市は四国内でも有数の水資源が豊富なまちで、近年の異常気象の中でも渇水に悩まされたことはほとんどありません。

市内を流れる清流「松田川」は四国山脈の一部を構成する霊峰篠山に端を発するものです。下流にある河戸堰は、約330年前に、当時の土佐藩家老野中兼山が治水工事を施したもので、改修工事がなされた現在でも、右岸には当時の堰の一部が保存されています。上流部では鮎の仕掛け、中流からはカヌー下り、下流では子供達の水遊びや、

プールの無い時代の地元校水泳部の練習場所として重宝され、河口ではアオサ海苔漁が盛んに行われています。宿毛音頭にも「春は河戸の瀬音も高く清い流れにやアユ躍る土手の桜は色香に咲いて四国へんろの笠に舞う」と歌われるなど、市民に親しまれている川です。河戸堰から市街地に延びる水路には、大きな鯉が悠然と泳いでおり、下流の農地を現在でも潤しています。

一方、「中筋川」は市内東部を流れ、兩岸の田園地帯を潤しています。しかしながら河川の高低差が少なく潮位の影響を受けやすい為、大雨の時には毎年のように洪水に悩まされていましたが、近年では上流部へのダム建設により、被害は軽減されています。上流域にはホタルが生息しており、ホタルの住める環境をいつまでも残しておきたいという気持ちから、ダム湖を「蛍湖」と称して市民に親しまれ、毎年夏には「蛍湖まつり」が開催されるなど、周辺住民の憩いの場になっています。

宿毛市では、市民や各種団体と協力して河川や海岸に限らず市内清掃を定期的に行うなど、市民一人ひとりが「ふるさと宿毛の自然」を未来に誇れる財産として大切に思ってもらえるように、お手伝いしていきたいと思っています。



宿毛湾の「だるま夕日」



市街地と松田川



沖の島のテーブルサンゴ